

私の授業～うまくいったこと、いかなかったこと

所属	教育発達学科	氏名	渋谷 恵
テーマ	伝わる場づくりのための振り返り		
<p>私の授業は学生に伝わっているのか、そして学生のなかで動いて働く知識の一部となっているのか。大学教員として教鞭をとりながら、ずっと自問しています。</p> <p>アメリカの大学院に留学していた折、ティーチング・アシスタント(TA)候補者のための研修を受けたことがありました。そのなかで印象に残っているのが、30人ぐらいのクラスを前に5分程度の短い講義をし、受講者それぞれからフィードバックをもらうという活動です。私としてはクラス全体に伝わるよう話をしたつもりでしたが、私と目が合った、私から伝えてもらったと感じた学生は約半数でした。それ以来、知識やメッセージを「伝える」「伝わる」とはどういうことかを考えています。</p> <p>また研究の一環で身体表現について学んでいたことから、演出家・竹内敏晴の考えを基礎にしたワークショップに参加したなかで、気づくことも多くありました。自分の言葉がどれだけ届いているのか、また相手とどれだけ呼応しているのか。また自分が発する言語だけではなく、身体を含めて伝えていること、また無意識に伝わっていることの大ささを感じます。</p> <p>そのため授業では、教える内容や方法の精査とともに、教室の雰囲気、学生の身体的な表現に意識的になること、また自分自身の表現、無自覚に取っている立ち位置や動き、声の調子などに意識的になるようにしています。とはいっても意識的であることと、実際に良いと思える表現、学生との呼応ができることには大きなズレがあります。説明調が続いたり、どんどん早口になってしまったり、学生の緊張と呼応して授業自体も固い雰囲気になってしまったり、タイトルにあるような「うまくいかなかったこと」が多くありますが、少なくとも自分と学生で作り上げる場の空気をフィードバックすること、より伝わる場を作るための手立てを考えることは続けていきたいと思えます。</p>			